

北見武道通信

令和5年12月28日 00671号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp



ニュースレター【局情報】北見商業高柔道部準優勝！

12月20日(水)21日(木)「北海きたえーる」で開催された「第46回全国高等学校柔道選手権大会北海道大会」で北見商業高校柔道部が準優勝しました。柔道男子団体3人制(2部)に全道から28チームが参加し、北見商業は【1回戦3-0 釧路工業、2回戦3-0 小樽桜陽、3回戦2-0 旭川東、準決勝3-0 札幌北斗】と勝ち進み、決勝戦では、【北見商業 1-2 札幌光星】で敗れるも見事な準優勝を獲得しました。大将の安田彩心選手は「来年こそは優勝」と意気込んでいました。(佐藤)

え!いつの間に黒帯に?!

柏悠会の鈴木太陽くんがいつの間にか黒帯になっていました。「6歳から空手を始め、白帯から黒帯に昇段したのは小学4年生です。これまで昇段して帯の色が変わっていくことがとてもうれしかったです。黒帯の取得は目標でもあったので格別のうれしさでした。空手の魅力は、組手と形の2種目あり、まったく別競技に思えるほど動きに難しさがあるところです。今後は、中学生でも空手を続け、6年生で経験した全国大会に中学生でも出場することが目標です。」とコメントも頂きました。太陽くん頑張っね。(佐藤) **～年末のご挨拶～** 今年一年皆様には大変お世話になり心より感謝申し上げます。来年も皆様のご協力を頂きながら、よりよい環境づくりに努めたいと考えております。来年が健康で幸多い年でありますようお願い申し上げます。年末の挨拶とさせていただきます。北見市武道館施設長 佐藤寿春



連載 中国「老子」の思想十三章 わが身を貴べ 人々は、栄誉を得ては胸を騒がせ、恥辱を負うては胸を騒がせる。栄辱を人生最大の関心事と心得ること、あたかも自分自身と取り違えているかの観がある。なぜ栄誉を得ては胸を騒がせ、恥辱を負うては胸を騒がせるのか。栄誉をよとし、恥辱を悪とする一面的な考えにとらわれているからである。だからこれを得ても胸を騒がせ、失っても胸を騒がせ、不安のおさまるときがない。なぜ栄辱を自分自身と取り違えるのか。栄辱に関心を抱くのも、自身が存在すればこそである。自身が存在しなければ、そもそも栄辱がどんな意味を持つであろう。自身あっての栄辱なら、自身を大切にすることこそ本筋ではないか。自身を大切にすることは、物事の本末をわきまえた人である。政治に熱心なあまりに、自身を忘れてしまう人、このような人物にはまだまだ天下の政治はまかせられない。原文:寵辱若驚。貴大患若身。何謂寵辱若驚。寵爲上、辱爲下。得之若驚、失之若驚。是謂寵辱若驚。何謂貴大患若身。吾所以有大患者、爲吾有身。及吾無身、吾有何患。故貴以身爲天下、若可寄天下。愛以身爲天下、若可託天下。(注) 天下より身を貴ぶ自身を大切にすること、それは利己的にふるまえということではなく、わが身に備わった「道」を貴ぶことである。天下は、これに比べるなら、二義的なものにすぎない。十四章に続く